

始
ま
っ
た



こ
こ
か
ら



す
べ
て
は



新作狂言「里見八犬伝」

八犬伝リターンズ

4作品一挙公演

二之章

「鎌腹」

「八犬伝

犬士列伝壱」

令和三年十一月十三日

午後五時三十分 開演

袖ヶ浦市民会館 大ホール

アド 小笠原弘晃

狂言「鎌腹」 シテ小笠原由祠

後見 能村晶人

小アド山下浩一郎

—— 休憩 二十分 ——

新作狂言「八犬伝 犬士列伝壱」

・語り

先生 小笠原由祠
生徒 山下凜々花

・名刀村雨丸ノ段

信乃 小笠原弘晃
番作 山下浩一郎
糠助 藤間直三
与四郎 鈴木修平

・額蔵玉持ノ段

信乃 小笠原弘晃
額蔵(荘介) 河野佑紀

・浜路くどきノ段

信乃 小笠原弘晃
荘介 河野佑紀
浜路 杉本茜
左母二郎 前川剛志
道節 野村万之丞

・死闘芳流閣ノ段

信乃 小笠原弘晃
成氏 能村晶人
在村 藤間直三
現八 青山郁彦
側女 TAKAKO
側女 杉本茜
家臣甲 前川剛志
家臣乙 河口博昭
家臣丙 伊後澤利夫
家臣丁 鈴木修平
家臣戊 安田麦

囃子方

笛 一噌幸弘 磯部舞子
笛 宮川悦子 吉野弘志
ヴァイオリン 吉見征樹
コントラバス
タブラ

演目解説

「鎌腹」(かまばら)

夫の太郎が怠けて山へ薪を取りに行かないので、妻は怒って鎌を結びつけた棒を振り上げて追い回します。仲裁人がはいり、妻を連れて立ち去った後、ひとり残った太郎は「女に侮辱されるより死んだ方がよい」と、鎌を腹へ突き刺そうとしますが・・・。

「八犬伝 犬士列伝壱」

犬の八房の妻となり、自害した伏姫から八つの玉が四方に飛び散ってより数年。犬塚信乃(いぬづかしの)は、父から足利家の宝刀「村雨丸(むらさめまる)」を託される。信乃は「孝」の字が浮き出る玉を持ち、左腕には牡丹のおおなじみ(痣)があった。村雨丸を狙っている伯母夫婦から逃れる際、「義」の玉を持ち背中に牡丹痣のある犬川荘介(いぬかわそうすけ)と義兄弟の契りを結び、父の遺言に従って、村雨丸献上のため、足利成氏(しげうじ)のいる瀟我(こが)の城、芳流閣へ向けて旅立って行くが・・・。

不思議な縁に導かれるように集う、同じ玉と痣をもつ「犬士」たち。犬士たちの登場で、いよいよ本格的に物語が始まります。

スタッフ

作・構成 小笠原由祠

総合演出

舞台監督 前田文洋

舞台監督助手 堀田興生

照明 岩本光正(株式会社フリーウェイ)

音響 伊東貴治(株式会社フリーウェイ)

映像 デジタルデザインスタジオ株式会社

協力 公益財団法人 千葉県文化振興財団

株式会社 萬狂言

株式会社 モンドバラレック

株式会社 玉ひで

千葉若菜の会・東京若菜の会

制作・票券 加藤充華

当日運営 富田愛子・櫻井恵美

プロデューサー・意匠 緒方辰之介

企画・主催 Atelier OGA.

